

統合科目	歯科矯正学
------	-------

[講義] 第3学年 後期 必修 3単位

《担当者名》○ 歯学部教授 / 飯嶋 雅弘 歯学部講師 / 中尾 友也 歯学部助教 / 土田 大 歯学部助教 / 江上 佳那

【概 要】

これまでの歯科矯正学に関する講義と実習により習得した基本的な知識を再確認する。

【全体目的】

歯科衛生士の業務に必要な歯科矯正学に関わる基本的な知識を再確認し、総合的な知識を習得する。

【学修目標】

歯科衛生士として成長発育の概念、不正咬合の原因および不正咬合の種類等が理解でき、患者にこれらのことが説明できるようにする。また不正咬合の治療にあたって、歯科衛生士の業務において必要な事項について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	歯科矯正学に関わる成長・発達	頭蓋（頭蓋底、上顎骨および下顎骨）の成長・発達を説明できる。 歯の成長・発達を説明できる。 口腔機能の発達を説明できる。	中尾 友也
2	正常咬合と不正咬合	正常咬合の条件を列挙できる。 歯性の不正咬合の名称を列挙し、説明できる。 Angleの不正咬合の分類を説明できる。 顎骨（骨格性）の不正咬合の分類を説明できる。 不正咬合の原因について説明できる。	中尾 友也
3	不正咬合の診断（１）	不正咬合の診断に用いる資料について説明できる。 歯性の不正咬合の分類を説明できる。 模型（平行模型、顎態模型、セツアップ模型）と模型の分析方法について説明できる。	江上 佳那
4	不正咬合の診断（２）	骨格性の不正咬合の分類を説明できる。 頭部エックス線規格写真（セファロ）の撮影装置について説明できる。 セファロの分析方法について説明できる。	江上 佳那
5	矯正歯科治療の用いる装置、材料、器具（１）	矯正歯科治療に用いる器具（プライヤーなど）の使用目的と使用方法を説明できる。 矯正歯科治療に用いる材料（ワイヤー、エラスティック、コイルスプリング、ブラケット、結紮線）の使用目的と使用方法を説明できる。	土田 大
6	矯正歯科治療の用いる装置、材料、器具（２）	矯正歯科治療に用いる器具の使用目的、効果および使用方法を説明できる。 保定方法および保定装置の使用目的と使用方法について説明できる。	土田 大

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

卒業試験 100%

【教科書】

歯科矯正（最新歯科衛生士教本） 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

【参考書】

歯科矯正学 第6版 医歯薬出版

プロフィットの現代歯科矯正学 クインテッセンス

【学修の準備】

前年度までの教科書および講義資料、プリントを整理し内容について確認しておく。（20分）

授業ごとに実施した内容を元に復習をする。（40分）

【ディプロポリシー】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を歯科矯正学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を歯科矯正学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を歯科矯正学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を歯科矯正学の分野で実践するために必要な知識を歯科矯正学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を歯科矯正学の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

中尾 友也（歯科医師） 長崎 綾汰（歯科医師） 土田 大（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

本学付属クリニック、付属病院およびその他の医療施設での実務経験を活かし、児童から成人に至るまでの患者に対する矯正治療（治療時期や治療に用いる装置など）に関する事柄を講義する。